

ぐるっと北海道6泊7日の旅一岬巡り 2500kmバスの旅

RSK OB 高谷 昇 NOBORU・TAKAYA 2014・09・11～17

9月11日から6泊7日で北海道の周囲をぐるっと回りました。函館～札幌～宗谷岬（日本最北端にある岬）～知床半島～納沙布岬～釧路～襟裳岬～・・・大雨警報・洪水警報・土砂災害警報などが北海道全土に出るという最悪の天気予報でした。出発日に岡山空港で止めるか？行くか？迷うような天気予報でした。JAL羽田行きが飛ぶというので、とりあえず羽田空港まで、もう1組の夫婦と共に行くことにしました。羽田空港に着くとJAL、ANAなど欠航が相次いでいました。我々の新千歳空港行きJALは1時間40分遅れで飛ぶということでした。とりあえず北海道の新千歳空港まで飛ぶことにしました。石川県、富山県、愛媛県、香川県、徳島県などのツアー客でしたが、全員2時間～4時間ぐらい遅れていました。こんな状態で、ぐるっと北海道6泊7日の旅行が出来るのかと全員が不安でした。空港で出迎えた北海道のバス運転手とバスガイドは遅れ遅れの飛行機を4時間空港で待ったとのことでした。石川県からのツアー客80歳の造園業会長は新千歳空港に到着すると、飛行機が3時間も遅れたと待っていたバスガイドを怒鳴り付けた。なんで飛行機の遅れをバスガイドの私が怒られるのかと、ガイドはぼやき倒していた。全員バスに乗り込みすぐホテルへ直行しました。やれやれくたびれた。もう寝るしかない・・・しかし明日からの旅行が心配です・・・

ところが天は我々に味方してくれました。我々のツアーバスは台風の眼のような良い天気の中を回りました。我々より早く回った同じツアーも、遅く回ったツアーも大雨や土砂崩れに遭遇し、大変な目にあいました。バスガイドも本当に運のよいお客様だと言っていました。本当に運が良かった。日頃の行いが良かったのだと、皆で喜びました・・・

* 1日目

岡山空港→羽田空港→新千歳空港→バスで 湯の川温泉 ここで一泊



・・・湯の川温泉・・・平成館 しおさい亭・・・

* 2日目

ホテル発→函館朝市→北海道昆布館→大沼国定公園（新日本三景のひとつ）→昭和新山火山村→サイロ展望台（洞爺湖を一望できる特等席）→札幌市内 ここで一泊



函館の市電



最後の青函連絡船（摩周丸）



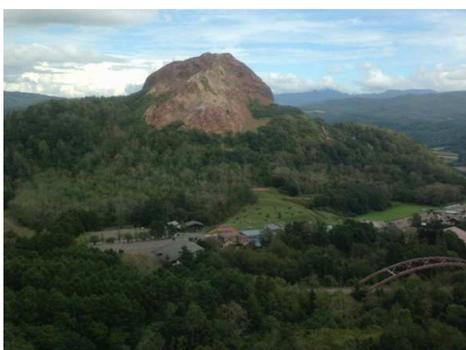
いくら・・・きれいに



函館のマンホールのふた



..... 函館の朝市



昭和新山・・・札幌のススキノ交番（ドラマ）



..... 有名人のサインがいっぱい..... 最高に美味しいラーメン店.....

*** 3 日 目**

ホテル発→砂川ハイウェイオアシス→おびら 練番屋→サロベツ原生花園 (広大な原生花園)
→宗谷岬 (日本最北端にある岬) →猿払村内 ここで一泊



*** 4 日 目**

ホテル発→紋別プリンスホテル (ご当地グルメ「紋別ホワイトカレー」昼食)
→サロマ湖 (車窓より) →網走海鮮市場→オシンコシンの滝 (知床半島 最大の滝)
→知床ウトロ温泉 ここで一泊



・・めずらしい赤いサンゴ草・・・よさこいソーラン踊り・・・サンゴ草まつり・・



・・・・・オシンコシンの滝・・・・・



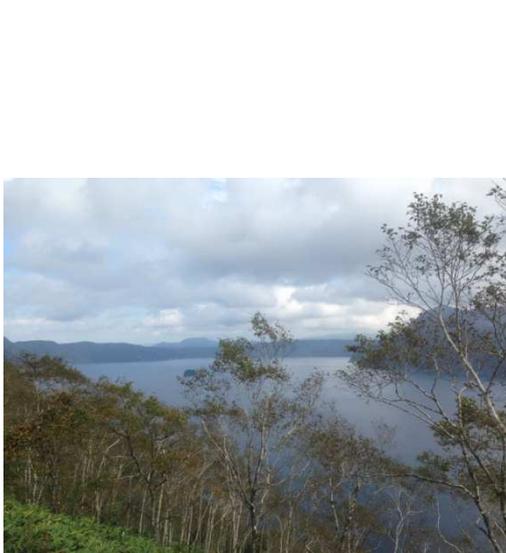
網走海鮮市場・・・・

*** 5 日 目**

ホテル発→知床五湖（歩きやすい高架木道を通って一湖を眺望）→知床峠→標津
→JR東根室駅→納沙布岬（望郷の岬公園）→釧路市内　ここで一泊







.....霧の摩周湖が晴天の摩周湖でした。↑.....



.....硫黄山.....



ふくろうポスト



モーターボートでマリモ養殖の島へ



..... モーターボートでマリモ養殖の島へ.....



..... 歓迎・アイヌ部落.....

*** 7 日 目**

ホテル発→幸福駅→襟裳岬→新千歳空港→羽田空港→岡山空港→帰宅



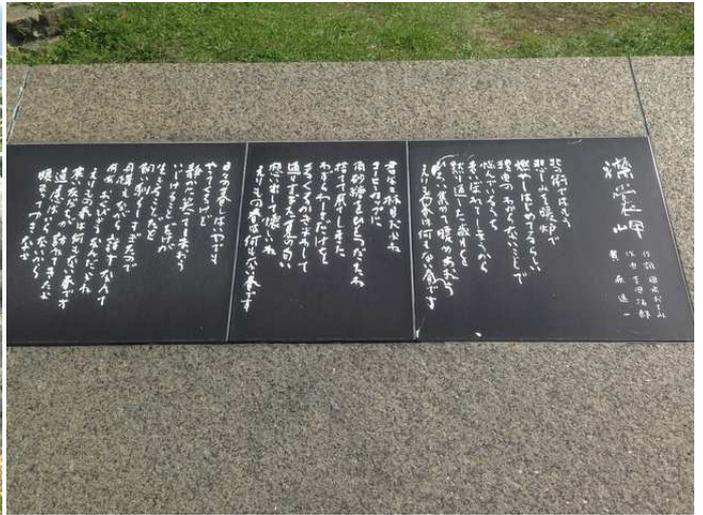
..... 阿寒湖の.....マンホールのふた.....



..... 愛の国から 幸福駅



..... コンブ漁



..... 島倉千代子 (襟裳岬の歌詩) 森進一



.. ♪ 襟裳の春は何もない春です ♪ 怒った住民・森進一の公演はガラガラだった ..



..... 襟裳岬 日高のサラブレッド 競走馬の飼育

飛行機の天候による大幅な遅れの怒りを、筋違いの北海道のバスガイドにぶつけた石川県からの造園業会長 80 歳はバスの中でもかすれた声でしゃべり通し、バスガイドが風邪でも引いているのかと尋ねた。すると会長は大きな病院の耳鼻咽喉科で徹底的に検査してもらったが、病名がわからず、様子を見てくれと言われた。今度は近所の町医者に行き診察してもらったら、あなたにする注射もないし、出す薬もないと言われた。あえて原因を言えば「しゃべり過ぎでしょう」と言われたそうです。確かにバスの中で寝ている時を除けば、しゃべり続けていました。80 歳の会長がしゃべってない時間を探すことは困難でした。ただ話の中身が面白かったのでツアー客もみんな耐え忍んでいました。

バスガイドのおじいさんの面白い話です。バスガイドのおじいさんは末吉という名前でした。8 人兄弟で彼は 5 番目だった。その弟は留吉でした。その妹は末子でした。その弟は終（おわり）でした。5 番目のおじいさんで子作りは止めたいと思った、おじいさんの親は 6 番目、7 番目、8 番目とややくそで終了したい思いを込めて名前を付けたとのこと。やっと 8 番目の終さん（おわり）さんで終了したとのこと。1 年の内 8 ヶ月は遠洋漁業に出かけた漁師の父親は命中率がいかに高かったか、おじいさんはいつも父親を自慢していたとのこと。バスガイドの母親の父親、即ちバスガイドのおじいさんは病気一つしたことは無かった。病院にお世話になったこともなかった。しかし晩年入院することになった。しかし困ったことに色ボケしたそうです。娘であるお母さんが見舞いに行くと、

アケミかよく来てくれたと言う。アケミ誰なの？と聞くとスナックは繁盛しとるのかと聞き、触りまくる。なにしょん・・孫であるバスガイドが見舞いに行くと、お前でもいいから触らせよと言う。「皆さんも色ボケしないように気をつけて下さい」とバスガイドに言われても・・・

最後までご覧いただきまして、ありがとうございました。・・・・・

ぐるっと北海道 6泊7日の旅一岬巡り 2500kmバスの旅

RSK OB 高谷 昇 NOBORU・TAKAYA 2014・09・11~17

